

インナー大会プレゼン部門 2017 専用企画シート

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

大学名（フリガナ）	学部名（フリガナ）	所属ゼミナール名（フリガナ）
フリガナ）ホウセイダイガク	フリガナ）ケイザイ	フリガナ）ナガオカフミヨウ
法政大学	経済学部	永岡 文庸

※大会申込書時に記入したチーム名から変更することはできません。

※パワーポイント内に動画を使用している場合は「有・無」を記入してください。

チーム名（フリガナ）	代表者名（フリガナ）	チーム人数 （代表者含む）	PPT 動画 （有・無）
フリガナ）	フリガナ）ナカヤマ ユウキ	4	無
永岡ゼミC班	中山 裕貴		

※プレゼンツールを使用する場合は記入してください。記入がないプレゼンツールは大会当日使用できません。

使用するプレゼンツール（具体的に使用するツールを明記してください）
無し

研究テーマ（発表タイトル）
クリーン・ウィンドウズ・プロジェクト

※必ず＜企画シート作成上の注意＞を確認してから、ご記入をお願いいたします。

1. 研究概要（目的・狙いなど）

研究目的は、ブローケンウィンドウズ理論の重要性を広め、豊かな環境づくりを全員が意識をもって行動するようになること。日本は、世界から見れば美しい国として見られているが、人が集まる場所にはどうしてもゴミが散乱し、マイナスの磁場が発生してしまう。地域ではゴミに対して規制を行っているところもあるが、それでも、対策しきれていないのも現状である。だからこそ、今こそ人間の心理をついたブローケンウィンドウズ理論を周知してもらうことで、ゴミを捨ててしまう人たちの内側から改善していくべきではないのか、と私たちは考えた。

2. 研究テーマの現状分析（歴史的背景、マーケット環境など）

1969年にアメリカの心理学者フィリップジンバルド氏は「人は匿名性が保証されている・責任が分散されているといった状態に置かれると、自己規制意識が低下し、没個性化が生じる。その結果、情緒的・非合理行動が失われ、また周囲の行動に感染しやすくなる」といったものを検証し、結論づけた。これを踏まえ1982年に「建物の割れた窓を放置すると、誰も注意を払わない象徴となり、やがてまもなくほかの窓もすべて破壊される」との考え方から犯罪学者ジョージ・ケリングは割れ窓理論を提唱した。割れ窓理論とは、割れた窓や落書き、ゴミがあることでその空間にマイナスの磁場が発生してしまい、そういった軽微な犯罪が結果的に

は凶悪犯罪につながりかねないというものだ。だからこそ、その間接的な軽微な犯罪を徹底的に取り締まることで、凶悪犯罪を含めた犯罪を抑止しようとケリングは述べている。この考えは、ニューヨークをはじめ、多くの場所で適用された。特にニューヨークでは落書きなどの軽犯罪を取り締まった結果、犯罪率が75パーセント減少するなど、大きな効果を得ている。一方で、日本の現状を見てみてもやはり、ごみのポイ捨てが多いなどのマイナスの磁場が発生している場所は犯罪率が高い傾向にある。条例でゴミのポイ捨てを禁止するなど、いくつかの対策はされているが、やはり、人の目のつかないところでごみが捨てられている。日本の1年間の犯罪件数は996204件（2016）。1日に約2800件もの犯罪が全国各地で起こっていることになる。実際にアンケートを行ったところ、実際にポイ捨てをしたことがある人は全体で8割。対策がされていることを知っている人は9割にも上っている。このことから、有効的な対策はされていないことが見て取れる。割れ窓理論を用いて対策している地域もあるが、ほんのごく一部である。規制などの外部からの対策だけでなく、捨てる人の内面からの対策がいま必要になってきている。

3. 研究テーマの課題

研究テーマの課題として主に2つ挙げられる。

1つ目は、ブロークンウィンドウズ理論をいかに周りに知ってもらうか。

2つ目は知ってもらったうえで、どのように良い環境づくりをしていくのか。

研究テーマの課題として、まず第一に挙げられるのが「割れ窓理論を多くの人が知らないために、軽微な犯罪（ポイ捨てや落書きなど）を軽んじてしまうこと。そして、そういった磁場の悪い環境を他人事のようにしている人が多いこと」だと私たちは考えた。そのためにもまずは割れ窓理論の重要性を知り、理解してもらう。そして私たちがごみや落書きに対してもっと意識を高めていけるようなきっかけづくりをするべきだと考えた。

4. 課題解決策（新たなビジネスモデル・理論など）

上記の課題を解決するために私たちが提案したものは、①自作ポスター & Facebook を使ってブロークンウィンドウズ理論を知ってもらい、理解してもらうこと。そして②理解してもらった上でゴミ拾いのイベントを開催する。イベントを通じてごみに対する関心を高く持ってもらい、きっかけづくりをしていく。

5. 研究・活動内容（アンケート調査、商品開発など）

活動内容として①ブロークンウィンドウズ理論の周知、②ポイ捨て削減の推進、③ゴミ拾いのためのイベント開催を実施する。

①②に関しては、ポスターの掲示、Facebook の運営をし、そこでブロークンウィンドウズ理論を広めポイ捨て削減の推進を図ることを狙いとする。ポスター、Facebook にQRコードを貼る。そこから我々が設立したサイトに飛ぶことができ、そこで詳しく説明する。また、③に関しては我々が主体となってイベントを開く。期間はハロウィンの日とし、ターゲットはまずは大学生。そのイベントを通じてごみに対する関心を高め、きっかけづくりをしていくことを狙いとする。

6. 結果や今後の取り組み

上記で述べたイベントをさらに規模を拡大するために、ボランティア団体の方と連携し、さらに大きなイベントを開催、そしてより多くの人がブロークンウィンドウズ理論を理解し、町の環境づくりに一人一人が積極的に行動していくように我々が活動していく予定。

7. 参考文献

[書籍]

割れ窓理論による犯罪防止—コミュニティの安全をどう確保するか G.L.ケリング著 （2004）

FIXING BROKEN WINDOWS G.L.ケリング著 （1996）

犯罪は「この場所」で起こる（光文社新書）小宮 信夫著 （2005）

なぜあの場所は犯罪を引き寄せるのか（青春新書インテリジェンス）小宮 信夫著 （2015）

[ホームページ]

・割れ窓理論とは

<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%b3%e4%a4%ec%c1%eb%cd%fd%cf%c0>

・落書きを消すと奇跡が起こる?割れ窓理論と人間の心理

<http://trend-library.com/archives/1302.html>

・東京教育委員会～ごみ問題分析～

http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/buka/shidou/kankyo/t_gakusyu/gakusyu03-05.htm

・江戸川区役所ホームページ

<https://www.city.edogawa.tokyo.jp/shisetsuguide/bunya/kuyakusho/kuyakusho/index.html>

・ゴミ排出量データ

http://www.stat.go.jp/naruhodo/c1data/22_01_stt.htm

・東京 23 区ポイ捨てごみ数量ランキング

<https://ennori.jp/3513/pirika-reveals-survey-result-for-garbage-in-tokyo-special-ward>

・国土交通省 シンガポールの観光・経済社会について

<http://www.mlit.go.jp/common/001036546.pdf>

・八王子市役所ホームページ

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisetsu/001/p012054.html>

<企画シート作成上の注意>

※本企画シートは審査の対象となり、予選会・本選の前に、実行委員会から審査員(ビジネスパーソン・大学教員)の方々に事前にお渡しいたします。

※本企画シートは、「日本語」で書かれたものとし、1 チーム・1 点提出してください。また、インナー大会・東京経済大学大会終了後、プレゼン部門にご協力いただいている日経 BP マーケティング社様に作製していただく大会結果 HP に本企画シートは掲載されます。

※本企画シートの項目に沿って、ご記入をお願いいたします。各項目に文字数制限はありませんが、1～7 以外の項目を追加することは「不可」とさせていただきます。

※本企画シートは、インナー大会プレゼン部門実行委員会への連絡事項と企画シート作成上の注意を含め、4 ページ以内に収めてください。実行委員会から審査員に渡す際は、A4 サイズでプリントし、4 ページ目までをお渡しします。

※大会参加申込み時点から、チーム編成の変更(チームの人数・交代など)は、「不可」とさせていただきます。ただし、チームメンバーの留学等やむを得ない事情でチーム編成に変更が生じる場合は、実行委員会(プレゼン局)にご連絡ください。実行委員会側で協議のうえ、ご返答いたします。なお、参加申込書提出時からのチーム名変更は「不可」とさせていただきます。

※企画内容は、未発表の(過去に他誌・HP などに発表されていない)ものに限りです。ただし、学校内での発表作品は未発表扱いとなります。

※商品写真、人物写真、音楽などを掲載・利用する場合、必ず著作権、版権の使用許諾を得てください。日本学生経済ゼミナール関東部会・日経 BP 社・日経 BP マーケティング社は一切の責任を負いません。

※書籍や新聞等の文献から引用した場合は、出典先(使用した文献のタイトル・著者名・発行所名・発行年月など)を明記してください。統計・図表・文書等を引用した場合も同様に明記してください。また、Web サイト上の資料を利用した場合は、URL とアクセスした日付を明記してください。

※電話番号や住所などの個人情報は記載しないでください。

※パワーポイント内で動画を使用する場合は、必ず「有」とご記入ください。動画を使用する際の注意事項は参加要項に記載しております。

※プレゼンツールを使用する場合は、必ず企画シートにご記入ください。企画シートにてご記入が無い場合、発表当日のご使用を「不可」とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

↑ ここまでを 4 ページ以内におさめて、提出してください